

突哨山の現状

出羽 寛

振替休日の昨年十一月二十四日、

久しぶりに突哨山を歩きました。カサコソと落ち葉を踏みしめる音だけが響くシラカンバ、ミズナラの雑木林の中は静かで暖かく、あちこちにツリバナ、コマユミの朱色やピンク色の実が残っています。しわがよってしなびたヤマブドウを口に含むと、思いつきり甘酸っぱく、幸せな気持ちになりました。歩きはじめてすぐにセミの抜け殻が幹についていることに気がつきました。見ると、あっちにもこっちにもいっぱいあります。一本の幹に六―七個もついているものもあります。小さなエゾハルゼミのもありますが、ほとんどは今年の夏大量に発生したコエゾゼミのものではないかと思えました。抜け殻で三種類いるエゾゼミが区別できるのだろうか？不思議に思ったのは、シラカンバにはいっぱいについているのにミズナラやカシワには少ないことです。見た範囲では相当はつきりしているようです。もしそうだとすると、なぜだろう、シラカンバの樹液はセ

ミにとっても甘いのだろうか？しかし、すでに誰かが調べているのではないか等と思いつながら歩きました。

上川盆地に細長く突き出た丘陵、突哨山は旭川市と比布町の境界にあります。私たちが「緑の岬」と呼んでいるこの突哨山のゴルフ場開発計画への反対運動を始めてから、今年で八年目になります。現在突哨山の公有地化をめざして活動を続けています。この間に、旭川市の街づくりにとって突哨山が大きな価値をもっていることを、様々な形で市民、行政に訴え続けてきました。そして、バブル経済が崩壊し、三年前の春に開発計画を一時凍結したまま、東京の開発業者は旭川営業所を閉鎖しました。ゴルフ場計画をストップさせるという一つの目的は、ほぼ達成されましたが、開発業者が買い取った突哨山の土地は、拓殖銀行、北海道銀行の差し押さえで、現在六回目の競売にかかっています。最低売却価格は今年になって一億七千万円に減額（昨年は二億一千万円）されましたが、あいかわらず買い手がつかない状況が続くと思われまます。また、ゴルフ場用地とは別に突哨山の一角にある旭川温泉が今年始めから競売になりました。旭川温泉（面積約〇・八町歩、最低売却価格一三四五万円）は我々でも買い取ることが可能では

ないか、そして突哨山の入り口にあることから、ここを拠点に新しい活動を始められるのではないかと考えました。ところが、資金の目処がつかないうちに、残念ながら先月軽車輻運送、廃品回収を営む業者に買い取られてしまいました。拓銀が倒産し、不良債権の一つである突哨山がどうなるのか、旭川温泉がどうなるのか、新たな不安材料が出てきました。

起伏が少ないため誰でもが歩きやすく、全国でも有数のカタクリの大群落を始め一五〇〇種類以上の野生生物が生息する突哨山は市民の憩いの場として、街づくりに活用できるはずで、早春には本場に多くの人が突哨山を訪れるようになりました。旭川市の緑化プラン（緑のネットワークプラン）を考える時周辺の丘陵と石狩川をはじめとする河川が身近な自然の骨格を成しています。その中で旭川市の北側で唯一のまとまった緑地である突哨山を市民の共有財産として保全する事は環境行政の面からも避けて通れない問題です。昨年三月に策定された旭川市緑の基本計画の中でも、環境保全、防災、景観の面から、改めて保全すべき貴重な緑地として位置付けられ、心強く思っています。昨年八月には菅原旭川市長に直接お会いして、競売の

経過を説明し、改めて突哨山の公有地化を要請しました。

問題は突哨山の自然を保全し活用していくために、行政と市民が力を合わせて、具体的にどうしていくかという事にあります。そのためには運動の輪をさらに広げて行かなければと考えています。

これまで、旭川市民だけでなく全道の多くの人から支援を得てやってきました。これからも各地からの情報やご意見をいただければ幸いです。

旭川市永山三条二十三丁目

旭川大学

突哨山の自然を考える会